

女性目線で捉えた 建築設計研修



女性が活躍できる建設業へ

女性の就業率は男女雇用機会均等法が施行された昭和六一年は五三・一％でしたが、平成二八年は六六％と、三〇年の間に約十三ポイント上昇しています。女性の就業拡大には、諸制度等の整備・充実が大きく働いたとみられますが、女性が職業を持つことに対する意識が、社会全体として変化してきたこともその背景にあると考えられます。

建設業においても、建設業全体の就業者数が減少する中、平成二三年より女性就業者数は増加傾向にあります。しかし、建設業における女性就業者の割合は、平成二六年で十四・九％であり、全産業の四三・〇％や製造業の二九・八％に比較すると低い状況が続いています。

そんな中、平成二六年には国土交通省と建設業五団体が官民挙げたアクションプランとして、「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」を策定し、女性技術者・技能者を五年以内に倍増という目標を掲げました。日本建設業連合会では、建設業で働くすべての女性の愛称として「けんせつ小町」を選定し、これまで男性中心だった建設生

図表1. 女性受講者数の推移

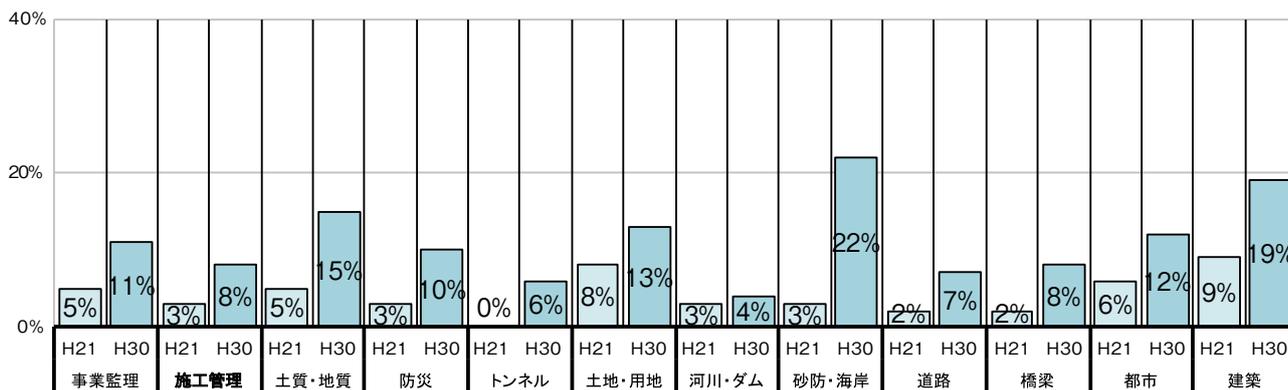


産方式を女性が持てる力を発揮できる産業にしていくため、女性にとって働きやすく、働き続けられる労働環境の整備を進めています。

全国建設研修センターにおける女性受講者の動向

当センターでは、建設事業に関して官民の建設技術者などを対象に年間九〇コース以上の研修を実施していますが、女性受講者数は右肩上がりが増えており、平成二二年度に一七六人だった受講者は、平成三〇年度には五六八

図表2. 部門別：女性受講者率の平成21年度と30年度の対比





課題発表

人と一〇年で三・二倍となっています
〔図表1〕。

受講者全体における女性受講者の割合も、平成二一年度は五%であったのが、平成三〇年度は十二%と変化してきています。

当センターの研修は、目的・教科目に応じて「事業監理」「施工管理」「土質・地質」「防災」「トンネル」「土地・用地」「河川・ダム」「砂防・海岸」「道路」「橋梁」「都市」「建築」「住宅」の十三の部門に分かれておりますが、平成二一年度と平成三〇年度を比較してみると、どの部門においても女性の比率が上がっているのが分かります〔図

表2。

女性建築技術者のみを対象とした研修

このように女性技術者を取り巻く環境の変化や当センター女性受講者数実績の増加などを踏まえ、女性ならではの視点や考え、発見を活かし、建設業界で活躍できる人材を育てることを目的として、平成二八年度より受講者を女性のみとする研修「女性技術者による建築計画」を実施しています。

平成二八年は二四名、二九年は二三名、三〇年は二九名の参加があり、令和元年度は二五名の女性技術者が全国から集まり、七月三日～五日の三日間で実施しました。

カリキュラムは、座学による「建築構造」「機械設備」「電気設備」「意匠設計」「施工図」とグループ演習による「企画設計図作成」及び演習内容にリンクした現地研修からなっており、建築物の計画・設計を行う上で必要な知識や技術を学ぶ内容となっています。

講師は全員、実際に第一線で活躍している女性技術者がつとめ、女性ならではの経験談を交えながら講義が行われました〔図表3〕。

図表3. 令和元年度研修「女性技術者による建築計画」時間割

月日	時間	教科目	講師
7/3 (水)	8:45～ 9:00	受付	
	9:00～ 9:30	開講の挨拶・オリエンテーション	
	9:30～11:00	建築構造	株式会社 山下設計 東京本社技術設計部門 構造設計部 主任 佐藤 まどか
	11:10～12:40	機械設備	株式会社 三菱地所設計 機械設備設計部 武藤 友香
	13:30～15:00	電気設備	株式会社 三菱地所設計 関西支店 設備設計担当 主事 宇多 聡子
	15:10～17:10	意匠設計 -課題説明含む-	株式会社 松田平田設計 総合設計室 建築設計部 主管 松田 知子
	17:10～18:30	課題演習	グループ演習「企画設計図作成」
4 (木)	9:00～11:00	施工図	三井住友建設株式会社 東京建築支店 工事管理部 工事推進グループ 生産設計 大谷 美紀
	11:10～12:40	課題演習	グループ演習「企画設計図作成」
	13:30～17:00	現地研修(病院・養育施設)	
	17:00～19:00	課題演習	グループ演習「企画設計図作成」
5 (金)	8:30～12:30	課題演習	グループ演習「企画設計図作成」
	13:30～15:30	課題発表	株式会社 松田平田設計 医療福祉設計部 大村 美砂
	15:30～15:45	閉講式	

とはいえ、教科目の内容自体に男女の違いはないので、この研修の特色は、女性だけによる、女性の視点を活かした「企画設計図作成」のグループ演習にあります。

演習の目的として、まちづくりの核となる施設の整備を地域住民と対話しながら進めるため、地域住民とのワークショップに出席し、施設のコンセプト・施設内容等を説明するための図面の作成を行い、その成果を発表し、意見交換を行うことにより、第三者に対する説明方法や対話の進め方等について

て実習を行うこととしています。

演習のテーマは、平成二八年が「図書館」、二九年が「中学校」、三〇年が「保育園」、今年度が「老人福祉施設」が取り上げられました。

限られた時間の中で、グループ毎に課題に取り組み、コンセプト、平面図等を作成し、プレゼンテーションを行い、講師の方から講評を受けています〔図表4〕。

受講者の感想

受講された方の感想文を見てみる

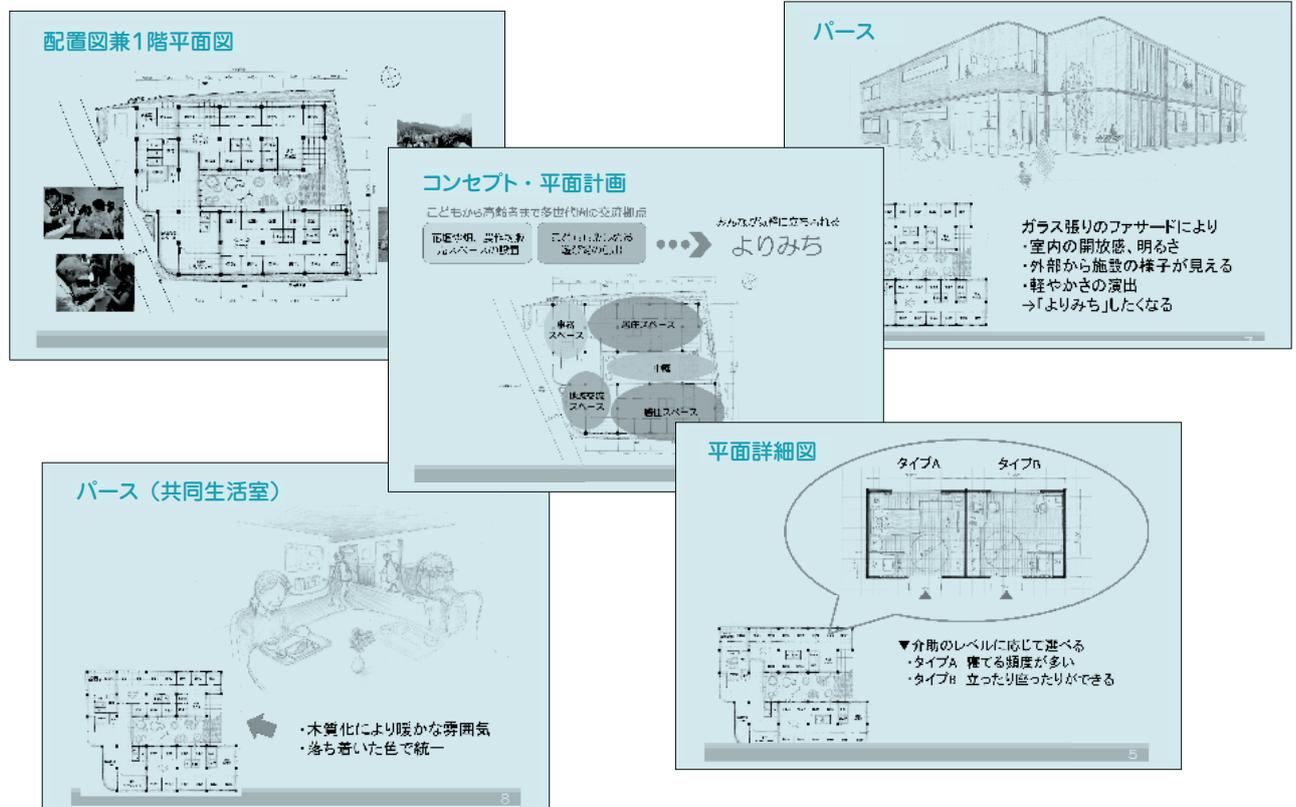
と、受講の目的では、「設計においては、女性技術者としての意見を施設管理者から求められることもあり、そういった視点を取り入れた建築計画の知識を得たいと考えて研修に参加しました」「この研修に参加した目的は、全国の女性技術者との出会いだ。他自治体や設計事務所、建設会社の方、特に女性と出会える機会は少なく、非常に貴重な経験だった。設計において女性ならではの視点や、育児と仕事の両立等業務以外のお話も参考になった」。

講義については、「講師や受講者も女性だったため、研修全般緊張感なく過ごすことができ、楽しかった」「講義も、意匠から構造、電気、機械設備、施工図と広い分野について学ぶことができただけでなく、各分野間の関連や調整が必要なことについても学べ、個々の知識技術を点とした時に、それらを繋いで広げて行きたいという目的に最適な研修でした」「女性目線としての意匠設計のやり方が学べたのはとても勉強になりました。男性では気がつかない女性の視点としての設計事例を具体的に聞くことができた」。講師については、「第一線で働かれている女性講師の方の貴重なお話が聞

けました。女性だから特別なのではなく、対等に仕事をし、家庭を両立し、キャリアを積んでいらっしやることに感銘を受けました」「各部門の最前線で活躍している講師の方々の事例を交えながらの講義は、とても理解しやすかった」「技術職として大手企業で働く女性たちから講義の内容だけでなく、一人前に自立して活躍するための姿勢を学んだ。皆さんとても素敵だった」「官民間わず同じ建築に携わる女性技術者が一堂に会する機会貴重である。もちろん各分野の講師の方々も、大手で働く第一線の女性であるため、大変勉強になった」。

現地研修では、「講義を受けた上での現地見学は、講義で教わった設備の配管やダクト、点検口等、どういふものなのか、またどのように配線されているのか考えながら見る事ができました」。

グループ演習に関しては、「課題演習では、グループ演習という事で他参加者との交流も生まれ、各々の業務での経験や知識を出し合いながら進めていくことができ貴重な経験となりました」等の声が寄せられています。



図表4. グループ演習 成果品

はじめに

全国建設研修センターに女性技術者向けの研修を提案したことをきっかけに講師の依頼を受けてから、今年で四回目の女性技術者研修を無事行うことができた。毎年全国各地多くの女性技術者に参加していただくことができ、大変嬉しく思っている。

私は三〇年近く建築意匠設計を専門に、児童・高齢者施設や学校の設計監理を行ってきた。その間に出産・子育てをしながら設計を続けた経験について、少しでも女性技術者の育成にお役に立てばと思い、講師を引き受けた。年を追うごとに、センターの研修に参加される女性の技術者の数が増えていると聞いているが、まだまだ女性技術者の数が少ない建設業界において、この研修が女性技術者の活躍に少しでも役立つことができればと考えている。

研修について

研修の科目は、意匠設計、建築構造、機械設備、電気設備、施工図の見方と、建物の企画から建設まで一連の技術を学ぶことができ、講師は各領域専門の現役の女性技術者が行

「女性技術者による建築計画」の講師を担当して



(株) 松田平田設計 総合設計室
建築設計部 主管 松田 知子

者が担当している。

私が担当する「意匠設計」では企画設計から基本設計、実施設計、積算、工事監理の順で説明し、女性の視点を織り交ぜながら講義を行って

いる。特に強調して説明する内容は、設計を通して気付いた男性技術者との視点の違いである。例えば階段の設計に際し、女性利用者を配慮しなかったために、後では正工事を

行った事例を紹介している。また、男性技術者との意見が最も異なる空間がトイレ計画である。女子トイレの計画に必要な配慮事項について男性技術者が気付いていないため、女性技術者が率先して計画に意見を述べていくことが、利用者の使い勝手の向上につながることを話している。最近の利用者の多様性まで踏み込んだ話題も提供している。

実習設計課題は、女性が担当することが多い文教・福祉施設を選んでおり、今年是小規模の老人福祉施設を課題に、高齢者の「終の住まい」について考えてもらった。

講師として思うこと

男性と分けて女性技術者研修を行

うことの意義を質問されたことがあるが、質問者は「技術には男性も女性もないのでは」という疑問があったかと思う。技術という視点では男女の違いはないと考えているが、女性が少ない建設業界において、同性の技術者が集い、同性の視点で知識を修得する場に参加することに意義があると考える。また、女性ならではの視点に実は気が付かないことがあるため、それらに気が付き、考察し、業務に生かすことができれば、この研修への参加は意義深いと考えている。

今後の研修内容の方向性と課題

今後の研修では、受講者からの質問を増やしたいと考えている。指名しても質問が出ない時もあり、教室形式ではなくゼミのような少人数形式で講義を行うといった、講師が身近に感じられるような講義形式も検討したい。女性の設計者は増えてきたが、現場で施工に携わる女性技術者の数はまだまだ少ない。女性技術者が現場で活躍するためにはどのような能力や知識が必要かという課題を、今後も模索していきたい。